### 2022年3月期決算 (2021年4月~2022年3月)

# 決算説明会

2022年5月13日

株式会社日本エム・ディ・エム

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

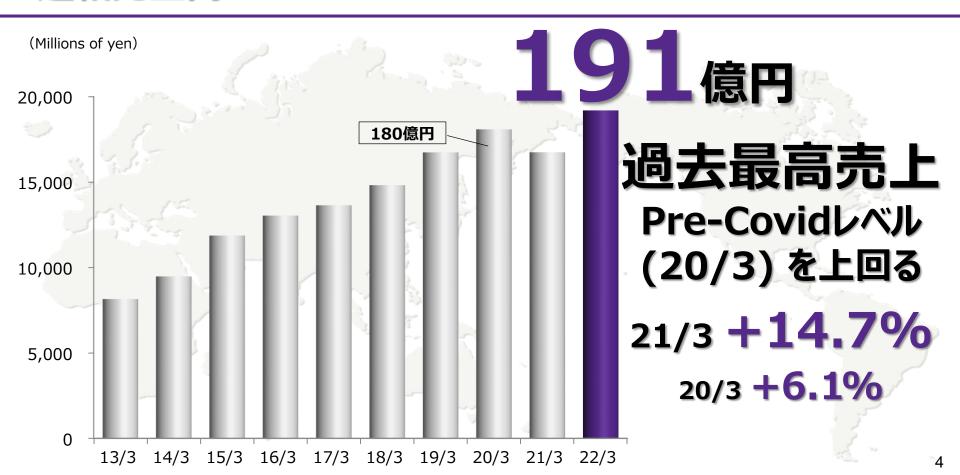
### アジェンダ

- ・2022年3月期決算結果
- ・2023年3月期業績予想
- Topics
  - ① 三井化学㈱との資本業務提携
  - ②ガバナンス体制の変更
  - ③ TCFD提言への賛同

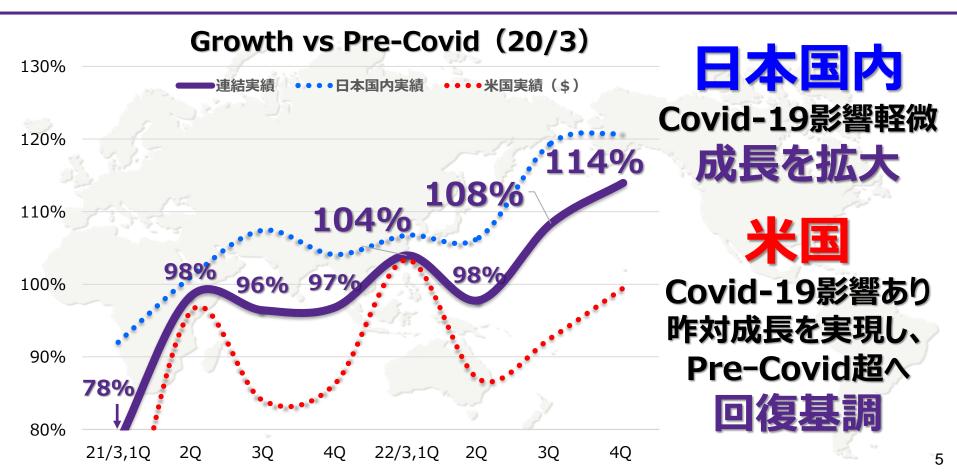
### アジェンダ

- ・2022年3月期決算結果
- 。2023年3月期業績予想
- · Topics
  - ① 三邦化学㈱との資本業務提携
  - ②ガバナンス体制の変更
  - ③ TCFD提言への質同

### 連結売上高



### 連結売上高【Covid-19の影響】



### 連結損益計算書

(Millions of yen , %)	22/3 実績	売上比	vs 21 増減額	/3 増減率	vs 20 増減額	/3 増減率	
売上高	19,193	100.0	+2,454	+14.7	+1,109	+6.1	
売上原価	6,204	32.3	+884	+16.6	+925	+17.5	
販管費	10,327	53.8	+1,077	+11.7	+167	+1.6	
営業利益	2,661	13.9	+492	+22.7	+16	+0.6	
経常利益	2,591	13.5	+465	+21.9	+9	+0.4	3
当期純利益*	2,134	11.1	+470	+28.3	▲30	▲1.4	

※親会社株主に帰属する当期純利益

### 主要品目別連結売上高

	22/3		vs 21/3 vs 20/3		/3	
(Millions of yen , %)	実績	構成比	増減額	増減率	増減額	増減率
日本国内売上	12,409	64.7	+1,345	+12.2	+1,487	+13.6
人工関節	4,719	24.6	+320	+7.3	+203	+4.5
骨接合材料	4,115	21.4	+418	+11.3	+355	+9.5
脊椎固定器具	3,125	16.3	+546	+21.2	+913	+41.3
人工骨・その他	448	2.3	+59	+15.4	+14	+3.4
米国売上※1	7,070	36.8	+1,396	+24.6	<b>▲</b> 90	<b>▲1.3</b>
人工関節	7,044	36.7	+1,387	+24.5	▲81	<b>▲</b> 1.2
脊椎固定器具	26	0.1	+8	+51.9	<b>▲</b> 8	<b>▲</b> 24.2
売上控除前小計	19,479	101.5	+2,741	+16.4	+1,396	+7.7
売上控除※3	△ 286	△ 1.5	<b>▲</b> 286	-	▲286	-
合計	19,193	100.0	+2,454	+14.7	+1,109	+6.1
自社製品売上	15,441	80.5	+2,072	+15.5	+418	+2.8
ドルベース <b>※</b> 2	62,640		+9,195	+17.2	▲2,992	<b>▲</b> 4.6
※1 換算レート (円)	112.88		+6.71		+3.77	

※2 Thousands of dollars ※3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除。

### 日本国内売上【人工関節】



### THA<sub>\*</sub>好調

Entrada成長

Intellijoint HIP®ナビ導入効果

新製品·商品

- ・SecuAlign (22年3月 ロローンチ)
- Arrow (21年9月 aローンチ)

(※ 人工股関節置換術)



### 人工膝関節関連新製品【SecuAlign】

### 人工膝関節関連新製品 「SecuAlign HTO プレート システム」の販売開始

変形性膝関節症の治療法、関節温存手術の

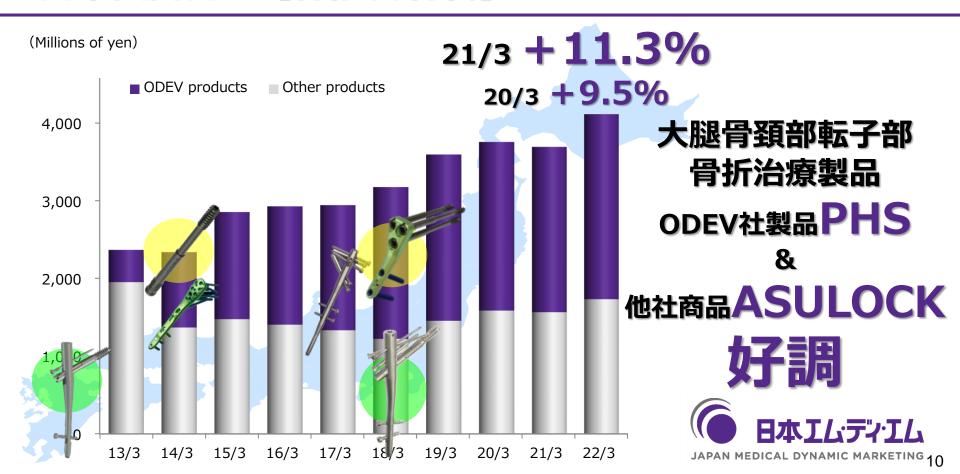
一つである高位脛骨骨切り術用の固定材料。

主に**除痛と機能改善**を目的とし、より**低侵襲** で傷口が目立ちにくいなどのメリットがあり近年需要が高まっている。

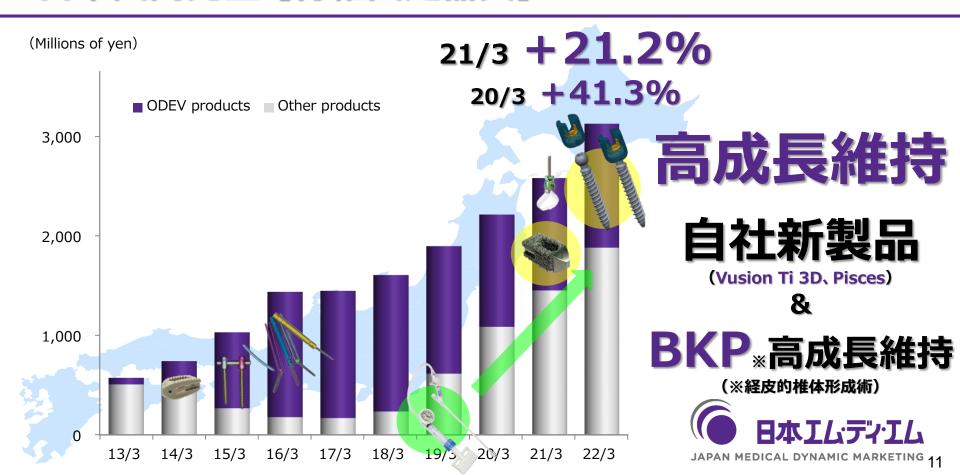
医療従事者にとってより多くの変形性膝関節症への 適応が可能となるため、日本国内の膝関節関連製 品の販売拡大が期待される。 ODEV社製品 【SecuAlign HTO プレート システム】



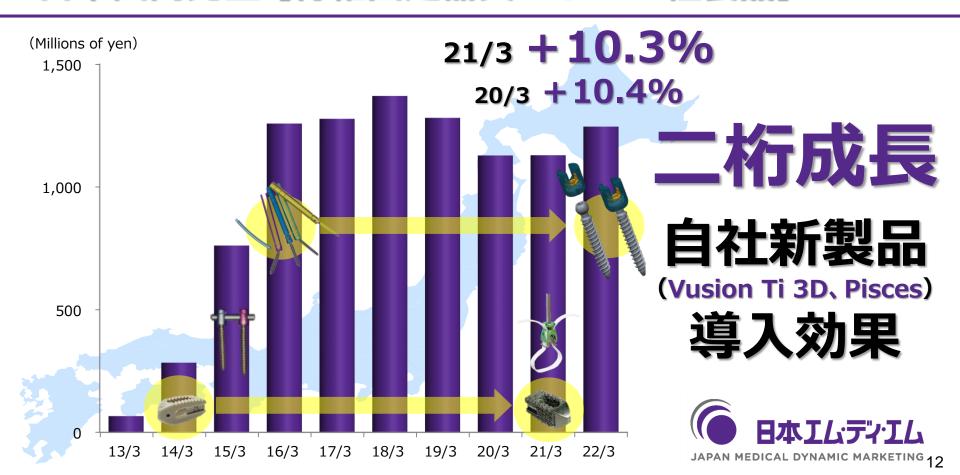
### 日本国内売上【骨接合材料】



### 日本国内売上【脊椎固定器具】



### 日本国内売上【脊椎固定器具: ODEV社製品】

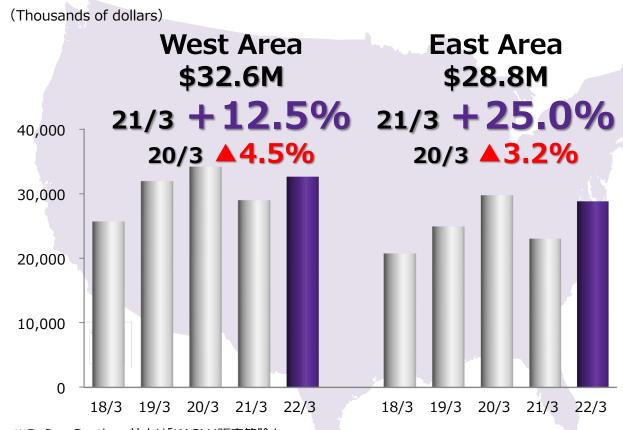


#### 米国売上



**DEVELOPMENT®** 

#### 米国売上【人工関節·地域別】



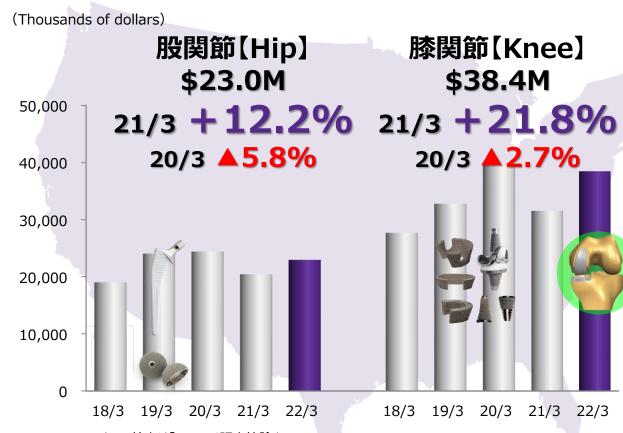
East Area 昨対比、急回復 地域差限定的

Pre-Covidレベルへ

回復基調



### 米国売上【人工関節·製品別】



Cones & Sleeves 全米展開効果

## 膝関節

### 回復順調

新製品

・Uni (22年1月 ロローンチ)



#### 人工膝関節新製品【Uni】

### 人工膝関節新製品 **FBalanced Knee® System** Uni」の米国販売開始

膝関節の一部を人工関節に置換する手術に用 いられる人工膝関節単顆置換術用のインプラント で、比較的早期の変形性膝関節症が適応症例とな り、膝関節への侵襲が少なく、膝関節の温存さ れる部分が多くなるため、患者のQOL向上に寄 与することが期待される。

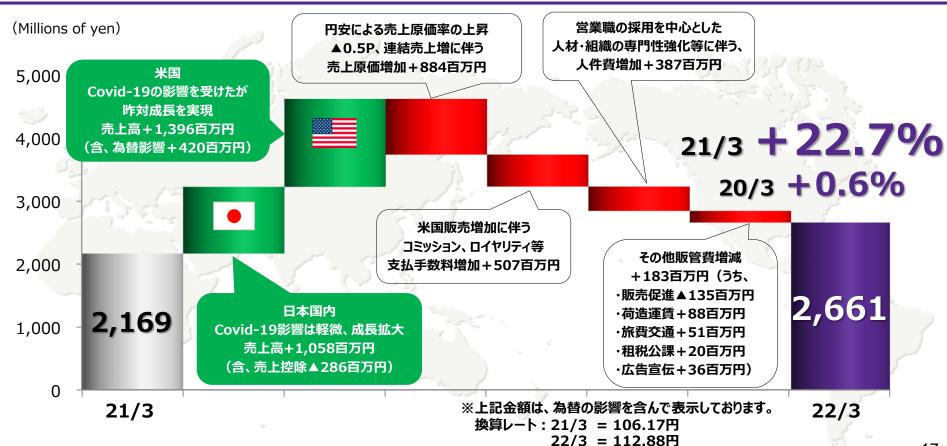
医療従事者による変形性膝関節症治療の選択肢 が拡大し、米国における人工膝関節の販売拡大が 期待される。

ODEV社製 [Balanced Knee® System Uni]





### 前期営業利益比較分析



#### 予想值対比

売上高は、Covid-19の影響は日本国内は軽微、米国は症例延期・中止の悪影響を受けたが、円安影響(予測値比4.88円円安)もあり、予測値を上回った。一方、営業利益及び経常利益は、円安影響(1円/ドル 営利感応度:21百万円不利)等で予想値を下回り、当期純利益は特別利益に米国のPPPローン債務免除益を計上した結果、予測値を上回った。

	22/3		予想值比増減		22/	<b>'</b> 3
(Millions of yen , %)	実績	売上比	増減額	増減率	予想値	売上比
売上高	19,193	100.0	+493	+2.6	18,700	100.0
営業利益	2,661	13.9	<b>↓</b> △ 38	△ 1.4	2,700	14.4
経常利益	2,591	13.5	<b>↓</b> △ <b>58</b>	△ 2.2	2,650	14.2
当期純利益 <sub>※</sub>	2,134	11.1	+334	+18.6	1,800	9.6

※親会社株主に帰属する当期純利益 18

### アジェンダ

- 。2022年3月期決算結果
- ・2023年3月期業績予想
- · Topics
  - ① 三邦化学㈱との資本業務提携
  - ②ガバナンス体制の変更
  - ③ TCFD提言への質同

### 【業績予想】連結損益計算書

22,000

7,300

11,900

2,800

2,700

1,850

売上高

売上原価

販管費

営業利益

経常利益

当期純利益※

※親会社株主に帰属する当期純利益

	23年3.	月期	前期」	 七増減	22年3月期		
(Millions of yen , %)	予測値	売上比	増減額	増減率	実績	売上	
VC, 5"					200 200	5	

100.0

33.2

54.1

**12.7** 

12.3

8.4

+2,806

+1,095

+1,572

+138

+108

284

+14.6

+17.7

+15.2

+5.2

+4.2

13.3

売上比

100.0

32.3

53.8

13.9

13.5

11.1

20

19,193

6,204

10,327

2,661

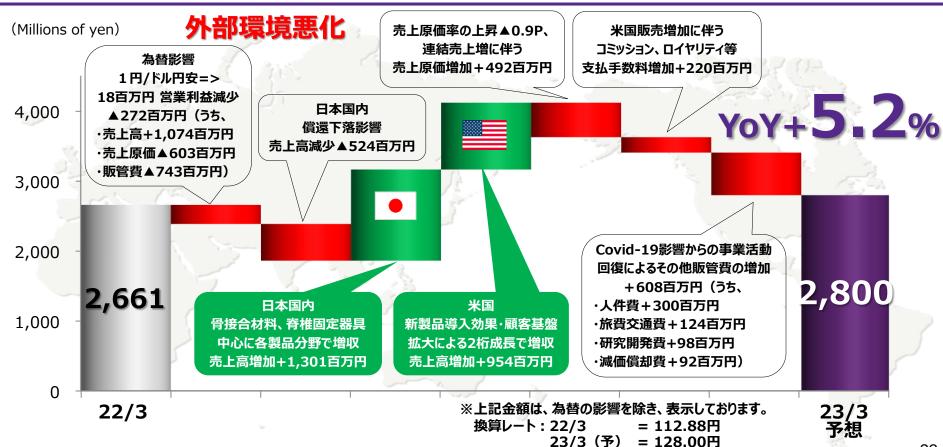
2,591

2,134

### 【業績予想】主要品目別連結売上高明細

	23年3月期		前期比	増減	22年3月期		
(Millions of yen , %)	予測値	構成比	増減額	増減率	実績	構成比	
日本国内売上	13,200	60.0	+790	+6.4	12,409	64.7	
人工関節	4,900	22.3	+180	+3.8	4,719	24.6	_
骨接合材料	4,469	20.3	+353	+8.6	4,115	21.4	
脊椎固定器具	3,459	15.7	+333	+10.7	3,125	16.3	
人工骨・その他	372	1.7	△ 76	△ 17.0	448	2.3	7
米国売上※1	9,100	41.4	+2,029	+28.7	7,070	36.8	
人工関節	9,100	41.4	+2,055	+29.2	7,044	36.7	
脊椎固定器具	- 10 m	-	△ 26	△ 100.0	26	0.1	
売上控除前小計	22,300	101.4	+2,820	+14.5	19,479	101.5	
売上控除	△ 300	△ 1.4	△ 13	4.6	△ 286	△ 1.5	
合計	22,000	100.0	+2,806	+14.6	19,193	100.0	
自社製品売上	17,942	81.6	+2,500	+16.2	15,441	80.5	
ドルベース※2	71,093		+8,453	+13.5	62,640	3 5	
※1 換算レート(円) ※2 Thousands of dollars	128.00		+15.12		112.88	4	70

### 【業績予想】営業利益比較分析



### 中期経営計画「MODE2023」進捗状況

第51期営業利益は、為替・償還価格下落など外部環境悪化により、営業利益がMODE2023対比で約▲5.4億円 (円安▲3.6億円+償還下落▲1.8億円)悪化するが、売上拡大、経費削減等により悪化幅を▲2.0億円に縮小す

<b>る</b> 。							
(百万円)	第50期		第51期		第52期		
	<b>実績</b> /目標	百分比	計画/目標	百分比	目標	百分比	
売上高	<b>19,193</b> /18,700	100.0%	<b>22,000</b> /20,000	100.0%	22,000	100.0%	
営業利益	<mark>2,661</mark> /2,700	13.9% /14.4%	2,800 /3,000	12.7% /15.0%	3,500	15.9%	
経常利益	<mark>2,591</mark> /2,650	13.5% /14.2%	<mark>2,700</mark> /2,950	12.3% /14.8%	3,400	15.5%	
当期純利益	<b>2,134</b> /1,800	<b>11.1%</b> /9.6%	1,850 /2,000	<mark>8.4%</mark> /10.0%	2,300	10.5%	
ROE (%)	10.7% /9.2%		8.3% /9.5%		10.0%		
ROIC (%)	<mark>7.9%</mark> /8.1%		<mark>7.8%</mark> /8.5%		9.0%		

### 【業績予想】設備投資等推移

	(単位:百万円)	2018年 3月期 実績	2019年 3月期 実績	2020年 3月期 実績	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	
70)	設備投資	995	2,075	1,812	1,586	1,665	2,250	
~	減価償却費※	1,014	1,159	1,385	1,386	1,420	1,650	
	研究開発費	594	484	470	459	485	658	3

<sup>※</sup>製造原価算入の減価償却費を含むため、損益計算書上の「減価償却費」とは一致しておりません。

### アジェンダ

- 。2022年3月期決算結果
- 。2023年3月期通期業績予想
- Topics
  - ① 三井化学㈱との資本業務提携
  - ② ガバナンス体制の変更
  - ③ TCFD提言への賛同

### Topics①三井化学㈱との資本業務提携

両社の経営資源を有効に活用することにより、より一層の事業の拡大を図り、医療機器分野における当社グループ及び三井化学グループの持続的成長を実現し、

両社グループの企業価値を高めることを目的として、資本業務提携を締結。

#### (業務提携の内容)

- 1 三井化学グループが有するヘルスケア分野における開発及び製造の機能を有効に活用すること。
- ② 当社グループが有する医療機器分野における薬事・開発及び販売ネットワークを 有効に活用すること。
- ③ 両社は協業の可能性を追求し事業開発及び海外事業の拡大を促進すること。







### Topics②ガバナンス体制の変更

当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的として、

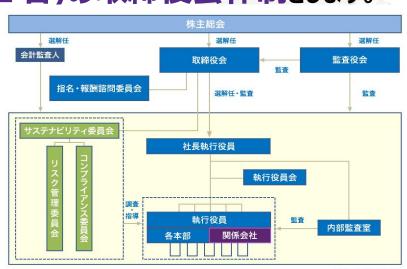
経営の監督機能を強化し、実効性の高いガバナンスを可能として独立性・中立性のある取締役会を構成するため、独立社外取締役比率の引き上げにより外部の知見や経験の更なる活用を図るべく、

取締役6名(うち独立社外取締役2名)の取締役会体制とします。

(当社50回定時株主総会に付議予定)

本議案が原案どおり承認された場合、 当社の取締役の3分の1が 独立社外取締役になります。

なお、当期より**執行役員制度を導入**し、経営と執行の分離を進め、執行役員会を 構成して意思決定の迅速化を図っております。



### Topics③TCFD提言への賛同

#### 当社は、

「最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて、医療に貢献する」という経営理念のもと、長期的な視点でマテリアリテイ(重要課題)を特定し、ESG 活動を通して企業の社会的責任(CSR)を果たすと共に、SDG S (持続可能な開発目標)に貢献すると同時に持続的成長を追求してまいります。

また、当社は、気候変動への対応もマテリアリティの一つとして捉え、TCFD提言への 賛同を表明、TCFDコンソーシアムへ参画いたしました。シナリオ分析、気候変動に伴うリスクと機会を評価し、TCFD提言に従い、4つの開示推奨項目に沿った情報を開示してまいります。

(https://www.jmdm.co.jp/sustainability-action/tcfd/)







